

日 時：平成 25 年 9 月 17 日(火) 18:00～

場 所：建築士会 会議室

出席者:(担当副会長) 長田 喜樹

(委 員 長) 金子 修司

(副委員長) 山成 芳直

(委 員) 加藤 清、加藤 高明、菊嶋 秀生、嵯峨野 雅彦、芝 京子、永井 香織、
長谷川 行彦、

(オブザーバー)奈良青年委員長

(事 務 局)佐川事務局長 田中職員

欠席者:(委 員)石井 明、村島 正章

<確認事項>

1 前回(7/16)議事録の確認【資料 1】

○前回議事録案が異議なく承認されました(前回同様、メーリングリストで事前送付済み)。

<協議事項>

1 本会の現状及び課題について【資料 2】

2 会員増強への取組みについてのレポート等について【資料 3】

《担当副会長より説明》

・資料 3 が本委員会に提出された経緯の説明があり、その後資料の内容について説明されました。

《委員長より》

・(資料 3 の作成者である)U 常任理事を本委員会にお招きし、説明いただく必要があると思います。

[質疑応答]

問:会員増強 TF との絡みもあると思いますので、参考までに同 TF の現状を教えてください。

答:昨年 6 月 30 日付けで設置し、渡邊副会長に担当いただいております。なお、本委員会が旗振り役です。

問:U 常任理事を交えて本委員会及び TF で議論してから上にあげることになりますか。

答:前回の理事会(7 月 9 日開催)で本件については本委員会が対応することとなりました。そのため、資料 3 が本委員会に提出されました。

《委員より》

・士会連合会では、毎年 2 月に全単位士会より女性会員数をご報告いただき、全建女で報告しています。配布資料中の各県士会の女性会員数は最新の数字で、特徴としてあげられた本県士会の高い女性会員率は減っていません。

[質疑応答]

問:強制加入にすべきだと思いますが、何が問題なのでしょうか。

答:入会率が低いことが問題となっています。

《委員より》

・お付き合いの上で1名は士会に入るといことにはなりますが、セネコン支店の設計部としてはその切実度は薄いです。施工管理技士は必ず必要ですが、建築士は奨励している程度にとどまっています。

賛助会としては、企業内建築士の倫理観のUPのためにも、士会に入るよう啓発してゆきたいと思えます。

[質疑応答]

問：行政の方の新規入会者が少ないのですが、何故でしょうか。

答：営業活動をしなくても仕事がありますし、行政では建築士資格の必要性が薄いです。顔なじみになることはメリットですが、そこまで浸透していません。

《副委員長より》

・某ガスメーカーの場合ですと、特に30・40代は建築士の繋がりが業務に生きてきます。また、横浜支部でアンケートを出したところ、多数が、士会でニーズに応じた講習会等を開催していただきたいのご意見でした。

《委員より》

・どこの層までを増員対象にするか検討する必要があります。例えば、学生や若手層まで広く対象とするのであれば、会費の減免や会員種別について考える必要があると思えます。

※資料3について、正副会長等の執行部としての意見を聞いた上で次回改めて議論することになりました。

《青年委員長より青年委員会で行われている拡大活動について説明》

・新規登録者セミナーは受験予備校の祝賀会に参加させて頂き、周知させて頂くとともに、本会会員が講師である場合などは、その講師から一声かけて頂くなどのフォローを頂いております。

・(青年委員会について…)委員が集まらない状態から現在は委員数も30名まで増え、毎回12~15名程の出席があります。当委員会では、3年程前から会員増強について本格的に動き出し、まず、活動の核となる委員の育成に努めています。また定年制によって新陳代謝がある委員会ですので、常々新規委員の取り込みが必要であり、どんどん声をかけていくことにしています。

[質疑応答]

問：青年委員会で主催した受験者向け施設見学会の内容を教えてください。

答：今年の出題テーマであるセミナーハウスの主な機能を知っていただけるような内容です。大学のセミナーハウスを探していましたが、県内の施設では閉鎖や遠隔地であるなどの理由から、セミナーハウスの基本機能を備えている施設を見学いたしました。

(各委員より、正に建築士になるための企画であり、良い企画であるとの感想が述べられました。)

《青年委員長》

・20代の会員が少ないので、二級建築士向けのイベントを企画する必要があると考えています。

・また、Facebookを介した会員間の繋がりが当委員会の活動を活発にしています。

[質疑応答]

問：青年委員会委員の職種構成はどのようになっていますか。

答：事務所勤務者が半分、施工・エネルギー関係が半分です。その他に不動産鑑定士が2名、行政関係が1名おります。業種の幅が広いところが士会の良いところだと感じています。

問：勤め人と経営者ではどちらが多いのですか。

答：勤め人が1/3です。新規合格者のほとんどが勤め人であるためです。

問:勤め人ですと、委員会等に参加するのは難しいのではないのでしょうか。

答:横浜支部では、年に1度、会員の勤務先主要企業の上司に挨拶しています。こうしたケアが大切だと感じています。

《青年委員長より》

・当委員会で行っている会員増強は、主に新規合格者が対象です。この時点で漏れてしまった方へのケアについて、今後の検討が必要であることと、各地域(横浜まで足を運べない方を指す)の非会員の方に対するアクションとしては支部にて対応いただく必要があると思います。

また、本会の会員属性を見ると、圧倒的に設計職が多く、施工職が少ない特徴があり、これは各支部、各委員会のセミナーの多くが設計者を対象にしている点からも明らかです。

施工職が少ない状況を弱点と捉え、ここに対するアプローチが必要となるでしょう。更には、退会者の再入会への働きかけも重要です。

《副委員長より》

・木造塾の集客率が高いところをみると、住宅系の企画が圧倒的に少ないのではないのでしょうか。

<報告事項>

1 賛助会小委員会主催講習会について【資料なし】

《担当職員より報告》

・神奈川建築確認検査機関様のご協力のもと開催したものです。43名の参加がありました。

2 第11回(一社)神奈川県建築士会活動交流会よこすか大会について【資料4】

《委員より報告》

・申込書が回覧され、講演内容について報告されました。

3 地域高齢者居住アセスメント等モデル事業について【資料5】

《事務局長より報告》

・9月12日までに全理事の同意を得ました。

《担当副会長より》

・まだ完全に終わった案件ではありませんので、随時経過を報告します。

4 会誌「建築士」発送方法の変更について【資料6】

《事務局長より報告》

(見本が回覧されました。)

・他での実績もあり、特にリスクのある業務委託ではありません。

《各委員より次のおり意見がありました。》

・デザイン的にはこれまでより良くなるのではないのでしょうか。

・廃棄すると際に分別がやや面倒になります。

・講習会等の告知に係る部分は1冊にまとめてはいかがでしょうか。

5 第57回神奈川建築コンクールの協賛者賞について【資料7】

《事務局長より報告》

[質疑応答]

問:主催者賞の選考に本会も関わっているのですか。

答:はい。審査員(黒岩相談役)を派遣しています。

問:これまでと協賛者賞の選定の考え方を変えたということですか。

答:平成19年までは設計担当者のみを対象にしていますが、平成20年より施工(賛助会)も含めることにしました。今回は担当者が正会員となっている作品を優先にしました。

次回は平成25年10月15日(火)午後6時からの開催です。